

	頁
目次	
口絵	
序	
凡例	
細目次	
第一編 近代後期の県民生活と地域社会	
第一章 県民生活の動向	1
第一節 生活にあらわれたゆとりと個性	1
第二節 生活調査からみた県民	16
第三節 結婚と家族の実情	28
第四節 非常時型生活の浸透	37
第二章 女性の希望と現実	47
第一節 女性への規制と反論	47
第二節 女子労働の現場	64
第三節 関係深まる行政と女性	74
第四節 遊廓の内外	84
第三章 地域社会・農村	93
第一節 村の様相	93
第二節 村の苦しみ	107
第三節 農村の再生にむけて	117
第四節 移民に託す	124
第四章 都市化の進展と都市の生態	135
第一節 都市形成の思想と運動	135
第二節 都市の膨張と都市的心性の発露	146
第三節 都市交通の変貌	155
第四節 都市の地域住民組織	164
第五章 マイノリティの社会と生活	181
第一節 被差別部落の生活	181
第二節 障がい者へのまなざし	194
第三節 在留朝鮮人の増加とその生活	202
第四節 中国人およびその他の外国人	218
第六章 社会事業の展開	227
第一節 貧困問題の諸相	227
第二節 社会事業の拡大と限界性	236
第三節 方面委員の活動	246
第四節 民間事業に貢献した人々	256
第七章 戦争・軍隊と県民	267
第一節 軍隊の地域への影響	267

第二節	新聞報道と県民意識	278
第三節	出征兵士の戦場体験	289
第四節	兵士と家族への援護と規制	301
第八章	宗教と祭礼	313
第一節	宗教への意識	313
第二節	諸宗教の動向	324
一	神道と神社	324
二	仏教	328
三	キリスト教	333
四	新宗教	338
第三節	宗教者による社会事業	343
第四節	国家による慰霊と祭典	355
第二編	近代後期の社会運動	
第一章	労働者の状態と労働運動	365
第一節	労働者の状態	365
第二節	労働組合の組織と運動	376
一	労働組合の組織	376
二	労働組合の運動	383
第三節	労働争議	390
一	第一次大戦後の労働争議	390
二	昭和恐慌以降の労働争議	403
第二章	農民問題と農民運動	421
第一節	農民組合	421
第二節	地主組合	433
第三節	小作争議	444
第四節	多様化する争論	460
第三章	左翼無産運動と右翼運動	469
第一節	無産政党運動	469
第二節	左翼運動	483
第三節	プロレタリア文化運動	500
第四節	右翼運動	509
第四章	反戦・反軍運動と平和論	515
第一節	兵役への異議	515
一	第一次大戦後の軍紀弛緩と兵役忌避	515
二	満州事変以後の兵役忌避	521
第二節	反軍・反戦行動と抵抗	525
一	山東出兵期	525
二	満州事変期	533
三	日中戦争期	536

第三節 国際交流と軍国主義批判	543
第五章 市民・住民の運動	557
第一節 普通選挙運動	557
第二節 電気料金値下げ運動	566
一 戦後不況期の電価値下げ運動	566
二 昭和恐慌期の電価値下げ運動	569
第三節 公害反対・環境保護運動	578
一 化学工業の進出と反対運動	578
二 豊橋人毛争議	583
第四節 地域民衆の諸運動	591
一 地域行政の民主化運動	591
二 公課撤廃運動	593
三 借家人運動	597
四 消費者運動	602
第六章 女性運動の諸相	607
第一節 社会問題・組織活動への模索	607
第二節 遊廓への異議申し立て	625
第三節 無産女性の困難と運動	633
第四節 婦人参政権要求の周辺	644
第七章 マイノリティの社会運動	653
第一節 被差別部落の社会運動	653
一 融和・改善事業の展開	653
二 水平社の創立と展開	659
三 軍隊内における反差別のたたかい	667
第二節 在留朝鮮人の社会運動	671
一 融和団体の成立と展開	671
二 在留朝鮮人の運動の展開	678
三 在留朝鮮人の教育運動	686
第三節 在留中国人の諸組織と民族運動	693
第三編 総力戦下の県民生活と地域社会	
第一章 総力戦下の県民生活	699
第一節 戦時生活の現実	699
第二節 女性と子どもの戦争総動員	712
第三節 戦争を支える家族	726
第四節 過重化する町内会の業務と深まる混迷	735
第五節 総力戦下の農村	747
第二章 戦時動員の強化	759
第一節 県民の戦意と戦争協力	759
第二節 軍隊への動員と援護活動	771

第三節 産業報国会の活動	783
第四節 徴用の強化と女子勤労挺身隊	794
一 徴用の強化と実態	794
二 女子勤労挺身隊	800
第五節 植民地民衆と戦時動員	806
第三章 本土空襲と戦時災害	817
第一節 初空襲と緊張する住民	817
一 四・一八初空襲の混乱	817
二 近づく空襲に不安と対策	820
第二節 空襲体験と住民の被害	826
一 名古屋空襲と市民の被害	826
二 焦土にされた豊橋・岡崎・一宮	839
三 工場爆撃の拡大による被害	846
四 さまざまな空襲被害	856
第三節 戦災としての地震	859
一 東南海地震と動員学徒などの被害	859
二 三河地震と疎開学童などの被害	863
第四章 総力戦体制への抵抗と弾圧	867
第一節 開戦直後の左翼グループ弾圧	867
第二節 文化人・知識人の抵抗	874
第三節 労働者・戦時動員者の抵抗	884
第四節 庶民などの抵抗	896
第五節 朝鮮人民族運動などの弾圧	907
解 説	917
付 表	
あとがき	
資料提供者及び協力者	
愛知県史編さん関係者名簿	
主な出典一覧	